

四段・已
風吹けば 沖の白浪 たつた山
格助

現在の推量「らむ」体

よは
夜半にや君がひとり越ゆるらむ
格助係助 下二・終

過去「けり」体
とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、
四段・用 四段・用 形・ク活用・用 四段・用 形・シク活用・終

打消「ず」用 完了「ぬ」用
河内へも行かずににけり。
四段・未 四段・用 過去「けり」終

上二・已
まれまれかの高安に来てみれば、初めこそ
力変・用 接助 係助

過去「けり」已
心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから
形・ク活用・用 四段・用 下二・用 副詞

いひがひ
飯匙取りて、笥子のうつつはものに盛りけるを見て、
四段・用 格助 過去「けり」体 四段・用 上二・用

打消「ず」用 完了「ぬ」用 ラ変・用 接助
心うがりて行かずににけり。さりければ、かの女、
四段・用 四段・未 四段・用 過去「けり」終 過去「けり」已

大和の方を見やりて、
四段・用

上二・用 間助 意思「む」終
君があたり見つつををらむ 生駒山
接助 ラ変・未

四段・用 接助
雲な隠しそ 雨は降るとも
副詞 終助 四段・終

意思「む」終
と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む」
四段・用 四段・体 接助 副詞 力変・未

完了「り」終
と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、
四段・已 四段・用 接助 副詞 完了「ぬ」已

意思「む」終
君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば
四段・未 四段・用 上二・用 接助

打消「ず」体
頼まぬもの恋ひつつぞ経る
四段・未 接助 上二・用 接助 係助 下二・体

過去「けり」已
と言ひけれど男住まずなりにけり。
四段・用 接助 四段・未 四段・用 過去「けり」終

風が吹くと沖の白波が立つという、そのような名前の竜田山を、夜中にあなたは一人で越えていくのでしょうか。(どうか無事に越えられますように)

と詠んだのを聞いて、(男は女を)この上なく愛しいと思つて、

河内の国に行かなくなってしまった。

ごくまれに、(男が)例の高安に来てみると、(女は)初めのころは

奥ゆかしく取り繕っていたが、今は気を許して、自分の手で

しゃもじをとつて、食器によそつたのを見て、

嫌気がさして、行かなくなってしまった。

そうだったので、その女(高安の女)は、大和の方を眺めて、

あなたのいらつしやるあたり(大和の方)を見ながら暮らしましょう。(大和の境にある)生駒山を雲よ隠さないでください、たとえ雨が降つたとしても。

と言つて外を見ていると、やっと大和の男が「来よう」

と言つた。喜んで待っていたが、そのたびに、(男が)来ないで過ぎていったので、

あなたが「来よう」と言つた夜ごとに(来ないままに)過ぎてしまったので

(あなたが来てくれることは)諦めておりますが、それでもあなたを恋いしく想つて過ぎております。

と言つたけれど、男は通わなくなってしまった。